

初版作成日： 2021/11/11

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：リンダアルパス 355ml×24/CS

製品番号 (SDS NO)：1443-1

推奨用途及び使用上の制限

使用上の制限：食器類、ショーケース、冷蔵庫、調理機械、自動販売機内の食品流通経路
(ノズル、カップステーション、シロップタンク上部)等の除菌

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称：横浜油脂工業株式会社

住所：横浜市西区南浅間町1-1

担当部署：技術開発部

担当者(作成者)：平沢 肇

電話番号：045-311-4701

FAX：0463-89-1330

緊急連絡先電話：045-311-4704

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

エアゾール：区分 2

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分 2B

生殖毒性：区分 1A

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 3(気道刺激性)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：区分 1(肝臓)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：区分 2(中枢神経系)

(注) 記載なきGHS分類区分：区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

H223 可燃性エアゾール

H229 高压容器：熱すると破裂のおそれ

H320 眼刺激

H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

H335 呼吸器への刺激のおそれ

H336 眠気又はめまいのおそれ

H372 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(肝臓)

H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(中枢神経系)

注意書き

安全対策

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。

P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P211 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。

P251 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

P264 取扱い後は接触部位をよく洗うこと。

P280 保護手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

P314 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

P304 + P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

貯蔵

P403 換気の良い場所で保管すること。P233 容器を密閉しておくこと。

P405 施錠して保管すること。

日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

廃棄

P501 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

エアゾール製品に関する高圧ガス保安法の警告注意表示

使用中噴射剤が噴出する構造のもの（火災長試験による火災が認められないものであって、かつ、噴射剤として可燃性ガスを使用しないもの）

高温に注意

高圧ガスを使用しており危険なため、下記の注意を守ること。

高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40℃以上となる所に置かないこと。

火の中に入れないこと。

使い切って捨てること。

使用する高圧ガスの種類

二酸化炭素

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：

混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号	化管(PRTR)法
エタノール	65-75	64-17-5	2-202	-
水	25-35	7732-18-5	-	-
炭酸ガス	1-5	124-38-9	1-169	-
安定剤	<0.1	非公開	非公開	-

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

エタノール

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

エタノール

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分の戻らない時は、医師の診察/手当てを受けること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

皮膚に付着した場合：多量の水/石鹼で洗うこと。

衣服等に付着した場合は脱いで、皮膚に付着した部分を石鹼でよく洗うこと。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。

医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

飲み込んだ場合は医師の診察/手当てを受けること。

子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診察/手当てを受けること。

医師に対する特別な注意事項

症状に応じた治療を施す。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、耐アルコール泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

消火作業は、可能な限り風上から行なう。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。

消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

容器が高温で破裂する恐れがあるので消火活動には十分距離をとる。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する

作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

こぼれた場所はすべりやすいために注意する。
引火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
多量の場合、人を安全に待避させる。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。
下水、排水中に流してはならない。
河川等に流出した場合は、管轄機関に連絡をする。
流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。
少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

二次災害の防止策

漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する
火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
裸火または他の着火源に噴霧しないこと。

エアゾール製品に関する高圧ガス保安法の警告注意表示

火の中に入れていないこと。
炎や火気の近くで使用しないこと。
火気を使用している室内で大量に使用しないこと。

(局所排気、全体換気)

排気/換気設備を設ける。

(注意事項)

製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
火花を発生しない工具を使用すること。
規定時間以上噴射しないこと
火気を使用している室内で使用しないこと
人体に向かって噴射しないこと、また噴射気体を直接吸入しないこと
眼、皮膚、または衣類に付けないこと。
取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。
取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
他の容器に移し替えしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

接触回避

強酸化剤

衛生対策

取扱い後は接触部位をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

エアゾール製品に関する高圧ガス保安法の警告注意表示

高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40℃以上となる所に置かないこと。
製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかないこと
熱/火花/裸火/高温のもののような着火原から遠ざけること。

(避けるべき保管条件)

日光から遮断すること。

安全な容器包装材料データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

(炭酸ガス)

日本産衛学会(1974) 5000ppm; 9000mg/m³

(エタノール)

ACGIH(2009) STEL: 1000ppm (上気道刺激)

(炭酸ガス)

ACGIH (1986) TWA: 5000ppm;

STEL: 30000ppm (窒息性)

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。
排気/換気設備を設ける。
蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸用保護具

保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣、保護前掛け等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体

色：無色、透明

臭い：アルコール臭

臭いの閾値データなし

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点：データなし

沸点範囲データなし

可燃性(ガス、液体及び固体)データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点データなし

自然発火点データなし

分解温度データなし

pH：6-8

動粘性率データなし

溶解度：

水に対する溶解度：溶ける

溶媒に対する溶解度データなし

n-オクタノール/水分分配係数データなし

蒸気圧データなし

蒸気密度データなし

蒸発速度データなし

密度及び/又は相対密度：0.866-0.870

相対ガス密度(空気=1)データなし

粒子特性データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

反応性データなし

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発をもたらす。

避けるべき条件

加熱・熱源・裸火

強酸化剤との接触を避ける。

高温へのばく露

混触危険物質

強酸化剤(引火性物質のため、強酸化剤との接触を防ぐこと。)

危険有害な分解生成物

危険有害な分解生成物データなし

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性データなし

局所効果

皮膚腐食性/刺激性データなし

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

ラビット 7日以内に回復 (ECETOC TR No.48(2), 1998 et al)
 呼吸器感作性又は皮膚感作性データなし
 生殖細胞変異原性データなし
 発がん性
 [日本公表根拠データ]
 (エタノール)
 cat.1A; (IARC, 2010)
 (エタノール)
 IARC-Gr.1 : ヒトに対して発がん性がある
 (エタノール)
 ACGIH-A3(2009) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明
 生殖毒性
 [日本公表根拠データ]
 (エタノール)
 cat. 1A; human : PATTY 6th, 2012
 催奇形性データなし
 特定標的臓器毒性
 特定標的臓器毒性(単回ばく露)
 [区分3(気道刺激性)]
 [日本公表根拠データ]
 (エタノール)
 気道刺激性 (PATTY 6th, 2012)
 [区分3(麻酔作用)]
 [日本公表根拠データ]
 (エタノール)
 麻酔作用 (PATTY 6th, 2012; SIDS, 2005)
 (炭酸ガス)
 麻酔作用 (ACGIH, 2001)
 特定標的臓器毒性(反復ばく露)
 [区分1]
 [日本公表根拠データ]
 (エタノール)
 肝臓 (DFGOT vol.12, 1999)
 [区分2]
 [日本公表根拠データ]
 (エタノール)
 中枢神経系 (HSDB, Access on Jun. 2013)
 誤えん有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性
 水生環境有害性
 水生環境有害性 短期(急性)
 [日本公表根拠データ]
 (エタノール)
 藻類 (クロレラ) EC50=1000mg/L/96hr (SIDS, 2005)
 水生環境有害性 長期(慢性)
 [日本公表根拠データ]
 (エタノール)
 甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属) NOEC=9.6mg/L/10days (SIDS, 2005)
 水溶解度
 (炭酸ガス)
 88ml/100 ml (20°C) (ICSC, 2006)

(エタノール)
混和する (ICSC, 2000)
残留性・分解性(BOD・COD)
(エタノール)
急速分解性あり (BODによる分解度:89% (既存点検, 1993))
生体蓄積性
(炭酸ガス)
log Pow=0.83 (ICSC, 2006)
(エタノール)
log Pow=-0.32 (ICSC, 2000)
土壌中の移動性
土壌中の移動性データなし
他の有害影響
オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
廃棄物の処理方法
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
エアゾール製品に関する高圧ガス保安法の警告注意表示
使い切って捨てること。
汚染容器及び包装
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類
国連番号またはID番号 : 1950
正式輸送名 :
エアゾール、不燃性 (容積が1L以下で、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。)
分類または区分 : 2.2
容器等級 : 該当しない
指針番号: 126
特別規定番号 : 63; 190; 277; 327; 344; 381
IMDG Code (国際海上危険物規程)
国連番号 : 1950
正式輸送名 :
エアゾール、不燃性 (容積が1L以下で、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。)
分類または区分 : 2.2
副次危険 : SP63
特別規定番号 : 63; 190; 277; 327; 344; 381; 959
IATA 航空危険物規則書
国連番号 : 1950
正式輸送名 :
エアゾール、不燃性 (容積が1L以下で、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。)
分類または区分 : 2.2
危険性ラベル : Non-flamm.gas
特別規定番号 : A98; A145; A167; A802

環境有害性

MARPOL条約附属書Ⅲ - 個品有害物質による汚染防止

海洋汚染物質 (該当/非該当): 非該当

MARPOL条約附属書Ⅴ - 廃物排出による汚染防止

発がん性: 区分1, 1A, 1B 該当物質

エタノール

生殖毒性: 区分1, 1A, 1B 該当物質

エタノール

特定標的臓器毒性, 反復ばく露: 区分1 該当物質

エタノール

特別の安全対策

容器の破損、漏れがないことをたしかめる。

荷くずれ防止を確実に行う。

該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。

直射日光を避ける。

水漏れ厳禁。

横積み厳禁。

夏場の輸送時には、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。

輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書Ⅱ 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Z類)

エタノール(Z-021)

有害でない物質(OS類)

水(OS-018)

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

ガス類 非引火性・非毒性ガス 分類2 区分2.2

航空法

高圧ガス その他のガス 分類2 区分2.2

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない製品

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

エタノール(別表第9の61)

名称通知危険/有害物

エタノール(別表第9の61)

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法

危険物

第4類 引火性液体アルコール類 危険等級 II(指定数量 400L)

化審法に該当しない。

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN

IMDG Code, 2018 Edition (Incorporating Amendment 39-18)

IATA 航空危険物規則書 第62版 (2021年)
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2021 TLVs and BEIs. (ACGIH)
JIS Z 7252 : 2019
JIS Z 7253 : 2019
2020 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)
Supplier's data/information

責任の限定について

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和2年度(2020年度))です。